

秦野高等学校 令和7年度 卒業式 式辞

三寒四温。春の訪れが感じられるこの佳き日に、PTA会長 阿久津 徹也様、同窓会長 久保寺 忠夫様、神奈川県議会議員 神倉 寛明様、また、学校運営協議会、同窓会、PTA本部役員のご来賓の皆さま、そして、保護者の皆さま方のご臨席の下に、令和7年度神奈川県立秦野高等学校第78回卒業式を挙げてまいりましたことは、卒業生はもとより、本校職員にとりまして大きな喜びとするところでございます。

ただいま卒業証書を授与しました350名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは本校の教育課程を無事終了し、本日、晴れて卒業の日を迎えることができました。これは、皆さん一人ひとりの努力のたまものです。まずは自分を大いにほめてください。自信を持って前に進んでください。

と同時に、皆さんをこれまで温かく見守り、励まし、支えてくださったご家族や先生方のことも思い出してください。感謝の気持ちを忘れず、これからもたゆまぬ努力を続けてくれると期待しています。

皆さんが手にする卒業証書は、単なる修了の証ではありません。この三年間、皆さんが他者と関わり、悩み、考え、積み上げてきた「時間の重み」そのものです。

先日、あるテレビ局の番組で、非常に興味深い特集が組まれていました。それは「友人や家族より、私の理解者はAI!？」というタイトルです。介護疲れや子育ての悩み、生きづらさ…。そんな現代人の心の隙間を「対話するAI」で埋めようとする人が増えているというものです。そこでは、AIと結婚式を挙げた方や、誰にも言えない悩みを24時間いつでも気兼ねなくAIに相談し、心の支えにしている人々の姿が紹介されていました。

AIは、決して否定しません。AIは、機嫌を損ねることも、裏切ることもありません。常に相談者に最適化された、心地よい言葉を投げかけてくれます。その回答は、まるで、自分のことをすべて理解してくれる人が、すぐ近くに存在するかのようです。孤独や不安が渦巻く現代社会において、それが一つの救いとなることは確かでしょう。

かくいう私も、かつてプライベートな質問を生成AIに投げかけたことがあります。その回答には、客観的な対処方法とともに、必ず私に寄り添う言葉が連ねてありました。「あなたが一人で背負わなくていい」、「どうか少し肩の力を抜いてください」、スマホの向こうに、まるで私の理解者となる生身の人間がいるかのような錯覚を受けました。私は思わず、「ありがとう、少し気持ちが楽になりました」と返信しました。その直後、これはすごく危険だな、と感じました。

先週には、AI搭載の僧侶ロボット「ブツダロイド」が誕生したというニュースが、報道されていました。仏教の経典を学習させ、人生相談などのさまざまな質問をわかりやすい言葉で答えてくれるといいます。合掌の姿勢を取り、会話する人型ロボットで、まさに目の前に存在します。

AIはどこまで進化するのでしょうか。AIなくして、すでに私たちの生活は成り立たなくなっています。

だからこそ、これから社会へ一歩を踏み出す皆さんに、私はあえて伝えたいことがあります。それは、「正解」や「心地よさ」だけでは、人の心は耕されない

ということです。高校生活を振り返ってみてください。部活動で意見が対立したとき、行事の準備で誰かとぶつかったとき、あるいは友人の何気ない一言で深く傷ついたとき。それらは決して、AI が提供してくれるような「心地よい時間」ではなかったはずです。

人間は、ままならない存在です。感情に左右され、時に理不尽で、あなたの期待に応えてくれないことも多々あります。ですが、その「自分とは違う他者」と向き合い、言葉を尽くし、時には譲り合い、時には対立しながら関係を築いていくプロセス、その摩擦の中にこそ、生身の人間だけが持つ「熱」が宿ります。

相手の表情の微かな変化を読み取り、声のトーンから言葉の裏にある痛みを想像する。こうした「ままならなさ」を通じたコミュニケーションこそが、皆さんの知性と感性を、ここまで豊かに育ててきたのではないのでしょうか。

これから皆さんが進む道には、効率や利便性という名のもとに、人間関係の煩わしさを回避できる選択肢が溢れています。しかし、傷つくことを恐れて、自分をすべて肯定してくれる鏡のような、AI の中に閉じこもらないでください。

自分とは異なる正義を持ち、時に自分を否定してくる他者は、実は大切な存在です。その存在を認め、対話を続けることは、大きなエネルギーを必要とします。ですが、その葛藤を乗り越えた先にしか、本当の「自己の確立」と、深い「他者への信頼」は存在しないのではないのでしょうか。

デジタルな情報のやり取りが加速する今だからこそ、生身の人間と向き合う「不器用な誠実さ」を大切にしてください。誰かの体温を感じ、誰かの痛みを自分のこととして感じられる、その人間らしい想像力こそが、これからの予測困難な時代を切り拓く光になると私は信じています。

本校で培った「他者と共に生きる力」を胸に、自信を持って歩んでください。皆さんの未来が、多くの人との出会いに恵まれ、彩り豊かなものであることを切に願っています。

終わりにになりましたが、保護者の皆さまにお祝いとお礼を申し上げます。

お子様のご卒業、誠におめでとうございます。卒業をもっとも喜んでおられますのは、長い間いつくしみ育ててこられたご家族の皆さまと拝察いたします。心からお祝い申し上げます。

また、3年間にわたりまして、本校の教育活動に多大なるご支援、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

秦野高校は、まもなく創立100周年を迎えます。

どうぞ、これからも、秦高を応援してくださいますようお願いいたします。

卒業生一人ひとりの前途に、幸多からんことを祈念し、78期生卒業の式辞といたします。



令和8年3月2日
神奈川県立秦野高等学校 校長 大江雅美